

IEA石油市場レポートの概要（2015年7月10日公表）

（代表部仮訳のため、正確には IEA のホームページを参照）

1. 原油価格については、7月上旬に、ここ3ヶ月で最も低価格に下落。ギリシャや中国の金融混乱が世界市場を不安定にさせる一方で、増大し続ける供給が価格押し下げ圧力に。レポート記述時点での原油価格は、約\$59/bbl（ブレント）、約\$53.10/bbl（US WTI）。
2. 世界の石油需要の増大は、2015年の平均140万b/dと比較して、2016年には120万b/dと緩やかになると見込まれるが、これらの需要はアジアのOECD非加盟国で期待される力強い消費に支えられる。2015年第1四半期に180万b/dのピークを迎えた世界の石油需要増大は、今年末にかけて引き続き緩やかになり、2016年は2015年の一時的な需要増が失われていく。
3. 世界の石油供給は、OPEC及びOPEC非加盟国の生産量増大により、今年の6月に55万b/d増大。世界の石油生産は、2014年に310万b/d増大し、9660万b/dに。その増大のうち60%をOPECの原油と天然ガス液(NGL)が占める。OPEC非加盟国の供給増は、原油価格の低下や生産関連支出削減により2016年には、ストップすることが見込まれる。
4. 6月のOPECの原油供給は、34万b/d上昇し、3170万b/dに達しており、これは、ここ3年で最も高い数字である。これは、イラク、サウジアラビア、UAEによる記録的な生産量による。OPECの生産量は、昨年より150万b/dを上回っている。2016年におけるOPEC原油への需要は、100万b/d上昇し、3030万b/dになると見込まれる。
5. OECD諸国の産業石油在庫は、急激に3800万b増加し、5月には28億7600万bという最大記録となった。製品在庫がこの増加の主な要因であり、5月末には30.7日分の需要を満たす規模となった。世界の需給バランスに基づけば、2015年第2四半期の間、世界の在庫増加のスピードが早まり、驚くことに330万b/dに達した。
6. 大きな精製マージン（原油と石油製品との価格差）が、期待より高いOECD諸国の稼働率を引き起こし、2015年第2四半期の精製量を7870万b/dまで引き上げた見込まれる。世界における精製量は、OECD非加盟国における増加へとシフトしながら、2015年第3四半期に更に70万b/d増加すると見込まれる。2015年と2016年における新設備の稼働開始は、精製マージンを縮減する圧力となる。